

泊原発に活断層の疑い、埋め立て地盤の液化化で冷却水が取水できない危険性がある

日本共産党国会議員団
北海道事務所 ニュース

No 91
2017年6月7日

札幌市東区北12条東2丁目3-2
TEL 011(750)6677
FAX 011(750)6678
Eメール jophkd@jophkdb1.gr.jp

畠山和也議員が厳しく指摘

安全性に問題あり、再稼働の申請は却下すべき

日本共産党の畠山和也議員は31日の衆院経済産業委員会、北海道電力・泊原発の安全性に重大な問題がある
と指摘、北電が提出したデータを規制委員会が整理して、断層を想定した地震動評価をすべきであること、埋
め立て地の液化化についての説明を求めたことに対して、「寝耳に水」とのコメントを出すなど北海道電力の「姿
勢や調査能力に疑問がある」、申請を却下すべきだと強調しました。畠山議員は北電のデータをもとに泊原発の
近海に活断層が存在する疑いが指摘されたのに「寝耳に水」とは、「自分たちの出したデータを読み込めない
のか」と批判し、原発敷地の3〜4割が埋め立て造成地で、液化化の危険があることを指摘。とくに3号機は、
液化化した場合、防潮堤が沈下し、冷却水が取水できなくなる恐れがあるとして、「さらに調べる必要がある」
とただしました。原子力規制委員会の田中俊一委員長は「私どもも液化化を懸念しているので、対策を求め、事
業者からの対応を待っている」と答えました。畠山議員は、原発を動かす事業者として問題であり、シンポジ
ウムでのやらせ問題とも合わせて、事業者の適性や体質の問題から、「安易に再稼働を許す状況にない」と指摘
しました。質問の概要を紹介します。詳細については「議事速報」をお読みください。



質問する畠山議員
＝5月31日経産委員会
(写真はしんぶん赤旗提供)

北電提出の資料に活断層の疑い地点が。その指摘を「寝耳に水」とのコメントは、(事業者の)姿勢に問題があり、申請を却下する必要がある

畠山議員「北海道電力は4年前に、再稼働に向けた申請を提出しました。しかし、申請が認められる状況からは遠い地点にあります。規制委員会が示した問題点を整理して答弁願います」田中俊一原子力規制委員会委員長「これまで出されているデータを用いて、2点指摘しています。一つは積丹半島の地形隆起ですが、海上音波探査の結果、海岸地形、微小地震分布などから、半島北西部に断層を想定して地震動評価をすべきではないかという指摘。もう1点は、泊原発の前面の海上埋立地に防潮堤があります。設置地盤の液化化についてきちつと評価をして説明して頂きたいという2点を指摘しています」

畠山議員「規制委員会が活断層の疑いを示すために使ったデータは、どこから新しく持ってきたのですか」田中委員長「私どもが新しいデータを持ってきたことはありません。事業者側から提出して頂いた資料を評価して指摘しています」畠山議員「疑いは北電が示していたデータの中にあつた裏面印刷の資料を使い問題を説明。規制委員会として、泊原発から20数キロ離れた地点ですが、活断層の疑いがあると指摘したのは、当然のことです。北電は自ら出したデータなのに『寝耳に

原発を動かす事業者の適性、体質の問題として、安易に再稼働を許す状況でない

水」とは自分たちの出したデータを読み込めないのか、わざと触れなかったのか、北電の姿勢や調査能力に疑問がある。申請が出てきたから受け入れるのではなく、却下が必要なのではないか。田中委員長「現段階では、北電が疑問に答えるべく調査をしていると理解しています」畠山議員はこれに続いて液化化問題を取り上げました。「裏面印刷の資料を使い問題を説明」規制委員会が液化化の危険性を指摘し、北電も防潮堤が崩れて取水口が塞がるおそれを確認しています。防潮堤だけでなく、重要な建屋も含めて埋立地の上に立っている。その液化化対策、問題点を調べる必要はないか」田中委員長「私どもは懸念していますので、事業者からの対応を待っているところです」畠山議員「私たちは再稼働について反対の立場ですけれども、北電は原発を動かす事業者として問題があると強く懸念します。3号機のプルサーマル発電に向けたシンポジウムで、社員の参加や計画推進発言を組織したやらせ問題もありました。今回の申請と一連あわせて、原発を動かす事業者の適性や体質の問題として、安易に再稼働を許す状況にはないと思います。再稼働以前の問題として、申請の実態があるという提起をしましたが、大臣はどのように受けとめますか」世耕弘成経産相「当然、地域の住民から信頼されるように、原発事業のあり方についてご理解いただくように取り組むのは当然のことと思っています」

畠山議員「北海道では世論調査を行うと、必ず泊原発の再稼働については反対が多数を占めています。大臣が地域、地元の理解が必要だと述べていますが、この状況が続いています。規制委員会が問題点噴出を示す泊原発の再稼働は認めることは当然できません、」